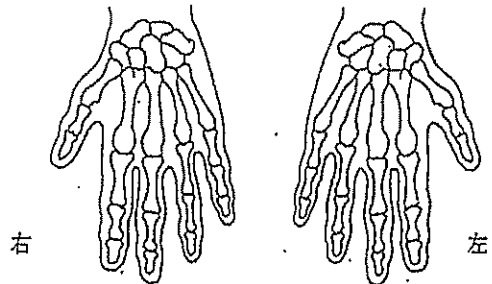
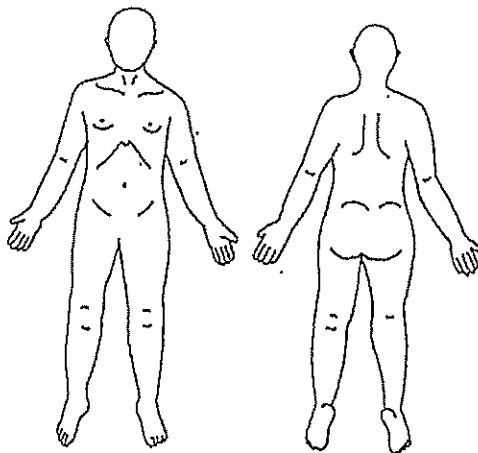


肢体不自由の状況及び所見【肢体不自由一般用】

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入）

- 1 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4 排尿・排便機能障害：なし・あり
- 5 形態異常：なし・あり

参考図示



右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

× 変形 ■ 切離断 ▨ 感覚障害 ▨ 運動障害

(注) 関係ない部分は記入不要

計測法：

- 上肢長：肩峰→橈骨茎状突起
- 下肢長：上前腸骨棘→(脛骨)内果
- 上腕周径：最大周径
- 前腕周径：最大周径
- 大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径（小児等の場合は別記）
- 下腿周径：最大周径

動作・活動 自立-○ 半介助-△ 全介助又は不能-x、()の中のものを使う時はそれに○

かぶりシャツを着て脱ぐ		正座する	} (両側の支え 要・不要)	
ワイシャツのボタンをとめる		横座りする		
顔を洗いタオルで拭く		あぐらをかく		
ブラシで歯をみがく(自助具)	右 左	あしを投げ出して座る		
背中を洗う		片足で立つ		右 左
排泄のあと始末をする		立ち上がる		
コップで水を飲む	右 左	(手すり・壁・杖・松葉杖・義肢・装具)		
(箸で) 食事をする(スプーン・自助具)	右 左	起立位を保つ (手すり・壁・杖・松葉杖・義肢・装具)		分
タオルを絞る(水をきれる程度)		家の中の移動 (壁・杖・松葉杖・義肢・装具・車椅子)		
とじひもを結ぶ		階段を上って下りる		昇 降
ズボンをはいて脱ぐ(自助具)		(手すり・杖・松葉杖)		
寝がえりする		屋外での移動	独歩	m
洋式便器にすわる			杖・松葉杖・車椅子	m
椅子に腰かける		公共の乗物を利用する(タクシーを除く)		

(注) 身体障害者福祉法の等級は機能障害 (impairment) のレベルで認定されますので () の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。

(該当するものを○でかこむこと)

1 上肢機能障害

ア 両上肢機能障害

<ひもむすびテスト結果>

- 1 度目の1分間 _____ 本
- 2 度目の1分間 _____ 本
- 3 度目の1分間 _____ 本
- 4 度目の1分間 _____ 本
- 5 度目の1分間 _____ 本
- 計 _____ 本

イ 一上肢機能障害 (右・左)

<5動作の能力テスト結果>

- a 封筒をはさみで切る時に固定する (可能・不可能)
- b さいふからコインを出す (可能・不可能)
- c 傘をさす (可能・不可能)
- d 健側の爪を切る (可能・不可能)
- e 健側のそで口のボタンをとめる (可能・不可能)

2 移動機能障害

<下肢・体幹機能評価結果>

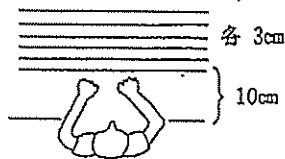
- a つたい歩きをする (可能・不可能)
- b 支持なしで立位を保持しその後10m歩行する (可能・不可能)
- c 椅子から立ち上り10m歩行し再び椅子に座る (可能・不可能) _____ 秒
- d 50cm幅の範囲内を直線歩行する (可能・不可能)
- e 足を開き、しゃがみこんで再び立ち上る (可能・不可能)

(備考) 上肢機能テストの具体的方法

ア ひもむすびテスト

事務用とじひも(概ね4.3cm規格のもの)を使用する。

- ① とじひもを机の上、被験者前方に図の如く置き並べる。
- ② 被験者は手前のひもから順にひもの両端をつまんで、軽くひとむすびする。



(注)・上肢を体や机に押し付けて

固定してはいけない。

・手を机の上に浮かしてむすぶこと。

- ③ むすび目の位置は問わない。
- ④ ひもが落ちたり、位置から外れたときは検査担当者が戻す。
- ⑤ ひもは検査担当者が随時補充する。
- ⑥ 連続して5分間行っても、休み時間を置いて5回行ってもよい。

イ 5動作の能力テスト

a 封筒をはさみで切る時に固定する。

患手で封筒をテーブル上に固定し、健手ではさみを用い封筒を切る。患手を健手で持って封筒の上に乗せてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端から出してもよい。はさみはどのようなものを用いてもよい。

b さいふからコインを出す。

さいふを患手で持ち、空中に支え(テーブル面上ではなく)、健手でコインを出す。ジッパーをあけてしめることを含む。

c 傘をさす。

開いている傘を空中で支え、10秒間以上まっすぐ支えている。立位でなく座位のままでよい。肩にかついではいけない。

d 健側の爪を切る。

大きめの爪切り(約10cm)で特別の細工のないものを患手で持って行う。

e 健側のそで口のボタンをとめる。

のりのきいていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタンをかける。女性の被験者の場合も男性用ワイシャツを用いる。